

令和7年度 広島県連合小学校長会 活動方針

広島県連合小学校長会は、永年にわたり、学校教育と学校経営に対する真摯な研究と実践を重ねるとともに、教育諸条件の整備に努め、小学校教育のさらなる充実と発展のために鋭意努力を続けてきた。また、令和3年度より組織上分離して活動を進めている広島市小学校長会とは、今後も連携調整・情報の共有化を図りながら、引き続き本県教育の推進を図っていく。

近年、深刻さを増す少子化・高齢化、協調・競争と分断・対立により混迷の度を増すグローバル情勢、気候変動に伴う自然災害の激甚化、生成AIなどデジタル技術の発展といった大きな変化があいまって、社会や経済の先行きに対する不確実性がこれまでになく高まっている。そのため、生涯にわたって主体的に学び続け、自らの人生を舵取りする力を身に付けることの重要性が増している中、Society5.0を見据え、これからの社会を展望する上で、教育の果たすべき役割はこれまで以上に大きい。

こうした時代の要請に応えるため、学校においては、一人一人が自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、「持続可能な社会の創り手」となることができるようにすることが求められている。学習指導要領を踏まえ、「社会に開かれた教育課程」の理念のもとに、一人一人の児童に寄り添った多様で質の高い学びの実現に向けて、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的充実や探究的な学びの質の向上等に取り組むこと、あらゆる教育活動において日常的にデジタル機器等を活用する環境を整え、デジタルの力でリアルな学びを支えるとの基本的な考えに立ったデジタル学習基盤の効果的な活用等、児童の「主体的な学び」を促す教育活動を一層充実させることが重要である。

我々は、このような現状を深く認識し、「生涯にわたる人材育成」を掲げる広島県総合計画「安心・誇り・挑戦 ひろしまビジョン」、本県教育施策全般の基本的方向性を整理した「広島県 教育に関する大綱」、さらに「広島版『学びの変革』アクション・プラン」の趣旨を踏まえ、「広島で学んで良かったと思える 広島で学んでみたいと思われる 日本一の教育県の実現」に向け、校長としてより一層リーダーシップを発揮して「自ら未来を拓き ともに生きる豊かな社会を創る日本人の育成を目指す小学校教育」を推進し、もって県民の負託に応える学校づくりに努めなければならない。

以上の考え方に立ち、次に掲げる各項を活動の重点とする。

- 1 学校の自主性・自律性を確立し、家庭・地域との目標の共有と連携・協働による学校経営を行う。
- 2 校長としての倫理規範を磨き、より一層リーダーシップを発揮し、不祥事の根絶に取り組み、信頼と秩序に基づく機動的で活力ある学校体制の確立と校内組織の強化を図る。
- 3 豊かな心や健やかな体の育成、いじめ・不登校等の解消を図る生徒指導体制の充実に努める。
- 4 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた、授業改善や「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的充実、デジタル学習基盤の効果的な活用等を進めることで確かな学力の向上を図る。
- 5 児童の自尊感情や自己効力感を高めるとともに、生命や人権を尊重する教育の充実に努める。
- 6 特別支援教育や「学びのセーフティネット」の充実を図るなど、児童一人一人の自己実現を目指す教育を推進する。
- 7 明確な人材育成方針や研修体制の充実により、教職員個々の実践的指導力などの向上に努める。
- 8 自然災害などの防災対策を含めた安全・安心な教育環境づくりを行うとともに防災教育を推進する。
- 9 教育の質を向上させるための「学校における働き方改革」をさらに加速させ、教育諸条件の整備・拡充に努め、教師のウェルビーイングの向上を図る。
- 10 教職員の人的条件整備や処遇の改善に努める。
- 11 校長としての主体性を確立し、会員相互の連帯感を深め、本会の組織強化を図る。